

協会だより



3

関東地域づくり協会からのお知らせ

関東地域づくり協会本部のレイアウトを一部変更しました
 令和5年度 関東ブロック災害復旧事業技術講習会を開催しました
 関東地方防災エキスパート活動状況
 関東地方防災エキスパート情報交換会について
 荒川図画コンクール

6

プロジェクトK⁴⁸

補償基準の妥結で前進
 インフラ整備の意義と
 向き合い続けたダム建設
 ハッ場ダム

10

関東の宿場町¹²

水戸街道 取手宿 茨城県

12

関東の土木遺産⁴⁹

堀割川 神奈川県

14

会員のひろば

東海道追体験の思い出

15

会員情報

新会員紹介・お悔やみ
 編集委員会だより

16

ピックアップ 関東の「道の駅」²⁶

地元産の野菜や果物が豊富にそろろう！
 都内唯一の道の駅
 道の駅「八王子滝山」

**表紙の言葉**

ガラリオ メェーさん (栃木県立鹿沼商工高等学校1年生 受賞時)

絶対負けない

この写真は、当協会が主催する第35回「道のある風景写真コンクール」で高等学校の部金賞に選ばれた栃木県立鹿沼商工高等学校のガラリオ メェーさんの作品です。

「この写真は地域で行われた自転車レースの写真です。悪天候だったのと自転車競技の撮影は初めてだったため、とても苦労しましたが、雨レースの雰囲気や競技選手の一生懸命な姿を捉えることができよかったです」

関東地域づくり協会本部のレイアウトを一部変更しました

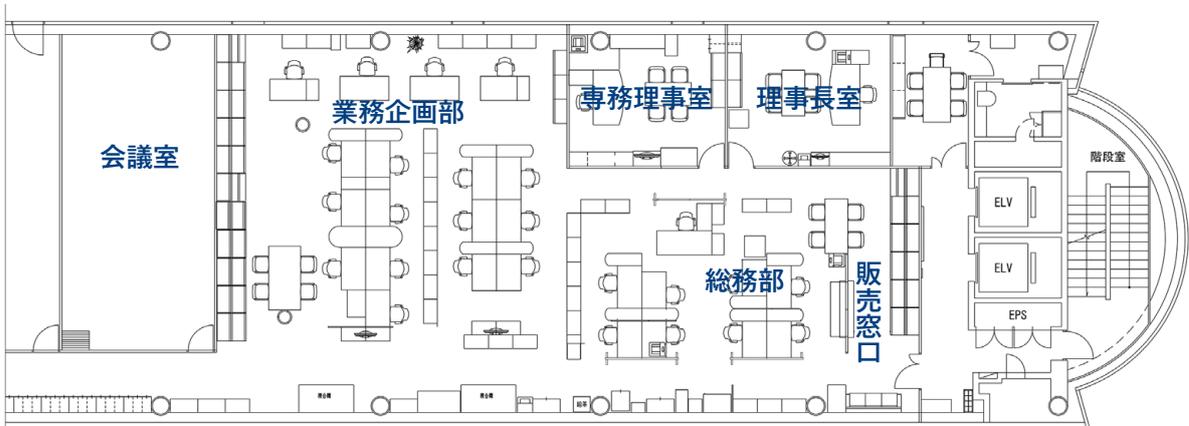
さいたま新都心マルキュービル9階当協会本部のレイアウトを今夏一部変更しました。

理事長室と専務理事室を東窓側へ並べて配置し、それに合わせ、総務部を西寄りの縦長配置としたのが主な変更点です。また、お客さまに分かりやすいよう、願書などの販売窓口は本部入口のすぐ近くに配置しました。

お近くにおいでの際は、ぜひ協会本部にお立ち寄りください。



販売窓口右側手前が理事長室、奥が専務理事室



令和5年度 関東ブロック 災害復旧事業技術講習会を開催しました

令和5年7月14日（金）、当協会および一般財団法人茨城県建設技術公社の主催により、赤羽会館講堂（東京都北区）において令和5年度関東ブロック災害復旧事業技術講習会を開催しました。本講習会は、関東地方で災害復旧業務に携わる関係者を対象として、平成17年度から実施しています。今年度も新型コロナウイルス感染防止のため密を避け、募集人数を収容定員の半分程度とするなど感染防止対策を徹底した上で開催しました。

当日は292名が受講し、災害復旧事業制度や留意事項など講師の話に真剣に耳を傾けました。

- 【主催】 一般社団法人関東地域づくり協会
一般財団法人茨城県建設技術公社
- 【共催】 一般社団法人建設コンサルタンツ協会関東支部
一般社団法人全国測量設計業協会連合会
関東地区協議会・東京地区協議会
一般社団法人関東地質調査業協会
- 【後援】 国土交通省関東地方整備局
茨城県
公益社団法人全国防災協会

■講義内容

- 「災害復旧事業制度の留意点」
木村 勲氏（国土交通省水管理・国土保全局防災課総括災害査定官）
- 「災害復旧事業採択上のポイント」
大西民男氏（国土交通省水管理・国土保全局防災課災害査定官）
- 「災害復旧事業における留意事項」
上原重賢氏（災害復旧技術専門家）
- 「令和元年東日本台風における茨城県の災害復旧事業」
原 芳和氏（茨城県土木部河川課水防災・砂防対策室係長）
- 「関東地方整備局の災害対応」
高橋 哲氏（国土交通省関東地方整備局災害対策マネジメント室長）



関東地方防災エキスパート活動状況

関東地方防災エキスパートは、関東地方において地震および風水害などの大規模災害発生時または発生の恐れがある場合に、専門的知識と経験を生かして公共土木施設等の被災状況の迅速な収集と通報および災害対応等に関する支援活動を、ボランティアとして行っています。平常時は各事務所・自治体等の水防訓練での水防工法の講師や施設点検などに参加しています。

ここ3年間はコロナ禍の影響を受け、防災エキスパート活動も以前の半分程度と少なくなりましたが、今年度上半期は「利根川水系連合・総合水防演習」が4年ぶりに一般の観客を入れて開催されるなど活動要請も少しずつ多くなっています。9月末時点で、延べ65名に活動していただいています。

■活動内容

- 第71利根川水系連合・総合水防演習関係 5月27日他
- 荒川上流河川事務所洪水対応演習参加助言 5月10日
- 利根川栗橋水防事務所組合水防訓練指導 6月 4日
- 富士川水防講習会水防工法指導 6月23日
- ものづくり大学水防工法実習指導 7月 3日
- 京浜河川事務所水防訓練指導 7月 7日
- 堤防決壊時緊急対策シミュレーション会議（8事務所）
- 霞ヶ浦河川 6月13日 江戸川河川 6月14日
- 利根川上流河川 6月21日 下館河川 6月26日
- 常陸河川国道 7月 3日 甲府河川国道 7月 7日
- 荒川上流河川 7月10日 京浜河川 7月13日



荒川上流河川事務所洪水対応演習に参加



ものづくり大学水防工法実習での指導



京浜河川事務所水防訓練での指導

関東地方防災エキスパート情報交換会について

防災エキスパート活動を効果的に行うため、毎年7～8月頃に関東地方整備局の各事務所主催による情報交換会が実施されています。ここ3年はコロナ禍のため人数制限やWeb会議、資料送付等での開催が主でしたが、今年度は久しぶりに以前とほぼ同様の対面形式で開催されました。7月11日から8月10日の間に33事務所で開催され、9支部の合計で299名の防災エキスパートが参加しました。



利根川上流河川事務所との情報交換会

支部名	主催事務所	開催日	参加者数	実施方法等
水戸支部	常陸河川国道	7月31日(月)	17	対面
	下館河川	7月21日(金)	5	対面
	霞ヶ浦導水工事	7月12日(水)	1	対面
	常総国道	7月19日(水)	4	対面
宇都宮支部	常陸海浜公園	7月27日(木)	2	対面、現場見学
	宇都宮国道	7月26日(水)	5	対面
	日光砂防	7月25日(火)	3	対面
	渡良瀬川河川	7月28日(金)	8	対面
高崎支部	鬼怒川ダム統合管理	8月8日(火)	5	対面
	高崎河川国道	7月24日(月)	14	対面
	利根川水系砂防	7月20日(木)	10	対面、現場見学
	利根川ダム統合管理	7月19日(水)	11	対面、現場見学
大宮支部	利根川上流河川	8月1日(火)	17	現場見学、対面
	荒川上流河川	7月31日(月)	16	現場見学、対面
	大宮国道	8月8日(火)	21	対面
	北首都国道	8月4日(金)	13	対面
千葉支部	荒川下流河川	7月28日(金)	9	現場見学、対面
	霞ヶ浦河川	7月24日(月)	3	対面
	利根川下流河川	7月19日(水)	6	対面
	江戸川河川	7月20日(木)	14	対面・Web
東京支部	首都国道	7月18日(火)	14	対面・Web
	千葉国道	7月13日(木)	20	対面・Web
	関東技術	7月11日(火)	6	対面
	東京国道	7月31日(月)	8	対面
神奈川支部	相武国道	7月27日(木)	6	対面、現場見学
	昭和記念公園	8月4日(金)	1	対面、現場見学
	京浜河川	7月31日(月)	14	対面
	相模川水系広域ダム管理	7月18日(火)	2	対面
甲府支部	川崎国道	7月27日(木)	7	対面
	横浜国道	8月10日(木)	9	対面・Web
長野支部	甲府河川国道	7月20日(木)	6	対面
	富士川砂防	7月31日(月)	10	対面
	長野国道	7月26日(水)	12	対面

令和5年度 公益事業紹介

河川愛護に関する広報活動 荒川図画コンクール

今年で34回目となる荒川図画コンクール。河川愛護に関する広報活動の一環として、次世代を担う小学生に荒川の絵を描くことにより河川美化・愛護の意識や関心を高めていただくとともに、その作品を通して多くの流域住民の方に河川愛護や河川への意識を啓発することを目的に実施されています。

平成17年から当協会（当時：関東建設弘済会）の公益助成事業となり、平成30年からは当協会も実行委員会へ加わり「関東地域づくり協会賞」も設けられました。

今年は1,650点、ここ10年の平均数とほぼ同数の応募

審査会会場の体育館の床いっぱいに並べられた応募作品



がありました。

9月22日に開かれた審査会にて特選および当協会を含む実行委員会11団体の各賞がそれぞれ各学年1点、入選各学年3点、佳作各学年5点の合計120点の入賞作品を選定しました。入賞作品は、埼玉県立川の博物館、戸田市役所などで順次展示される予定です。

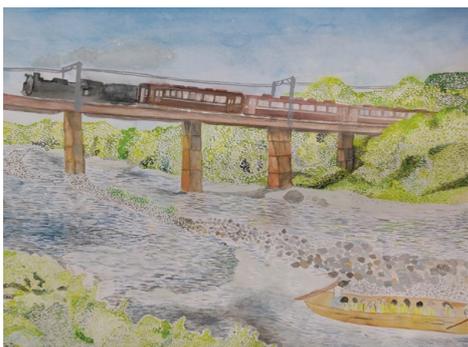
今回「関東地域づくり協会賞」に選ばれた6作品を紹介します。



魚とり
茂木みのりさん 小鹿野町立小鹿野小学校1年生



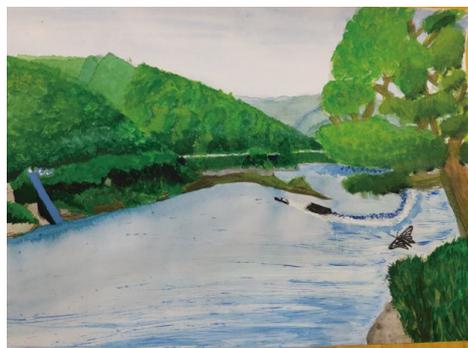
楽しい・都幾川
岩田結莉さん 小川町立小川小学校3年生



長瀝溪谷と荒川橋梁を走りぬけるSL
清水陽太さん 朝霞市立朝霞第五小学校5年生



入間川夕焼け
岡田夏絵さん さいたま市立大砂土小学校2年生



有間ダムとクロアゲハ
古田島 悠さん 川越市立霞ヶ関東小学校4年生



滝沢ダムとループ橋
竹内 希さん
東松山市立青鳥小学校
6年生

補償基準の妥結で前進 インフラ整備の意義と 向き合い続けたダム建設 ハツ場ダム



会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、苦労や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。第48回は、完成までに長い時間を要したハツ場ダム建設事業に携わった野田徹さん、高橋克和さんと現場を訪ねました。



野田 徹さん

清水建設株式会社常務執行役員。昭和56年入省、平成27年、北陸地方整備局長を最後に退職。

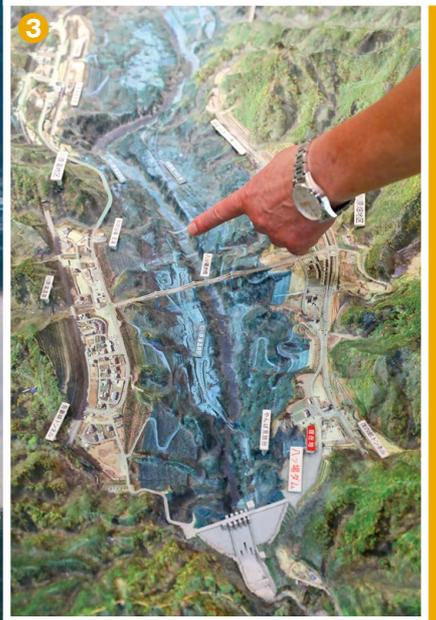
高橋克和さん

奥村組土木興業株式会社環境開発本部技師長。昭和57年入省、平成27年、企画部技術調整管理官を最後に退職。



①令和元(2019)年10月の台風19号により、試験湛水開始直後のハッ場ダムは一晩で満水(総貯水量1億750万トン)に。その直後の湛水状況

②令和2年3月に完成したダムを背にする野田さんと高橋さん。計画変更の過程で発電の機能も組み込まれた



③長野原町の5地区がダムの底に沈むことになる計画であり、地元の人々との交渉は難航した

湖底に沈む集落を前に 覚悟を求められた職員

群馬県長野原町にハッ場ダムが完成したのは令和2(2020)年3月。昭和27(1952)年の計画策定・調査開始から完成まで実に70年近くの歳月を要した。この大規模ダムは治水・利水を主な機能としている。昭和22年のカスリーン台風で利根川の堤防が決壊し、関東平野に大洪水が引き起こされたことが計画の契機であり、上流での治水には絶対に必要なダムであった。とはいえ、首都圏への生活用水・工業用水の供給や下流域の洪水調節のために、集落の全域あるいは一部が水没することを地元の人々に理解してもらうのは容易なことではなかった。ダム建設に要した時間はそれを物語っている。

野田徹さんは、平成13(2001)年4月から平成16年6月まで、ハッ場ダム工事事務所の第12代所長を務めた。

「ハッ場ダム事業では多くの職員が苦労をされましたし、何より住民の皆さんに大変なご迷惑をおかけすることになりました。家屋敷から田畑、山林まで全て水没するというのです。はいそうですかとすぐに納得できる話ではないの

は誰にだって分かります。それだけに、ひたすらお話を聞き、交渉してご理解いただくしかなかったのが実情です。私はごく一部分しか携わっていませんが、完成した今は、長年の継続でいつかできるのだな、人間の力はすごいものだと改めて思いますね」と、ダムを前に感慨を語る。

高橋克和さんは平成9年4月から平成12年3月まで調査設計課長として、平成17年4月から平成20年6月まで副所長として同事務所に勤務した。

「以前、ある人に『おまえは本当にこのダムが必要だと思っているのか』と言われたのです。『本当にそう思っていないとできないぞ。ちゃんとハッ場ダムの必要性を勉強しろ』と。着任したとき、所長からは、なぜ、このダムが必要なかが一般の人にも分かるような資料を作れと指示されました。外の人向けというよりも、まずわれわれ職員の自覚のためでもあったと思います。自分で『これは絶対に必要な事業だ』と思わないと、地元との交渉はできませんから」(高橋さん)

平成4年には長野原町で、平成7年には吾妻町(現・東吾妻町)で、「ハッ場ダム建設に係る基本協定書」が締結された。ここからようやく地元の人々がダム建設事業のための交渉に応じる動きが出てきたのだ。引き続き今住んでい



④ 調査しなければならない箇所は膨大にあったと語る二人。補償基準妥結後、立ち入り調査は加速した

4

⑤ 補償基準の協議を行った地元地区の会合。ハッ場ダム工事事務所の職員も連日出向いて意見を聞いた

(提供:利根川ダム統合管理事務所)



⑥ 平成13年6月14日の「補償基準調印式」。ここからダム建設に向け本格的に進展

(提供:利根川ダム統合管理事務所)



5

⑦ 平成15年に県道林吾妻線「吾妻峡トンネル」が完成。道路や鉄道の付替が少しずつ進んでいった

(提供:利根川ダム統合管理事務所)



7

る長野原町と同じ地区に住みたいという希望を持つ人が多かったため、現地再建方式として生活の基盤を造ることは国土交通省としての最優先事項。代替地や県道や国道の付替道路、鉄道の付替、駅の移転など、将来の形を示しながら交渉して理解を得る、その繰り返しだったという。「協力してくれる人も、まだ協力できないという人もいました。平成9年、10年、11年は、本当に厳しかったですね」と高橋さんは言う。関係する地区は、水没地になる長野原町には5地区、付替道路や鉄道の用地、工事関係のヤードなどのために土地を借りるダムの下流の吾妻町にも5地区。それら全てに足しげく説明に通う毎日だった。

「平成10年度は概ね1日おきの頻度で、夜7時からの説明会などのため町や地元に行っていました。当時、課長以上は皆、長野原町にあった官舎に住んでいましたから、夜10時頃に帰ってくると所長が待っていて『今日はどうだった?』と酒を飲みながら話すわけです。そこから議論が始まり0時頃になることもあり。毎晩毎晩、そのような生活でした」(高橋さん)

補償基準妥結で大きく前進

ダム事業の場合、やはり補償基準の妥結が事業進展の大きな節目となる。平成9年に横壁地区と長野原地区そして林地区で補償交渉委員会ができ、補償基準について協議する場が徐々に整っていった。平成11年の4月には川原湯地区・川原畑地区で補償交渉委員会ができ、同年

に5地区の補償交渉委員会を束ねる「水没関係5地区連合補償交渉委員会」ができた。これで初めて事業者と地元の代表の委員の間で補償基準に関する交渉が持たれることとなった。

「実は用地補償では、単に『土地の値段はこう』と決まるわけではないのです。大本となる基準ですから、まずは事業に必要な土地の公図が整っているかの確認から始まります。この土地がある人の持ち物だと確定すると、次はその土地が山林なのか農地なのか宅地なのか、地目について合意しないといけない。山林や農地、宅地や雑種地、全ての土地の地目と等級が確定したところで、今度はその地目と等級について価格を決めていきます。そこまできてようやく1㎡いくらかという金額の交渉になるのです」(野田さん)

平成13年6月14日。連合補償交渉委員会設置の平成11年6月14日から、ちょうど2年後の同日に長野原町の連合補償交渉委員会と補償基準の妥結調印式が行われた。野田さんが所長に着任して2カ月半後のことだ。

「前任の谷本光司所長のときに補償基準の大部分は合意されていましたが、未合意の部分もありました。庭木の値段などが妥結調印式までに決めなければならない一番最後のところでした。庭木は、丹精込めて立派に育てたものでも樹種としては安いのです。各家庭の庭木がどのようなものか、私は5月の連休にいくつかの集落内の道を歩いて見て回りました。どの家の庭木もきちんと手入れされ、花をつけてきれいなんですよ。それを見たら、こち



8 **9** ダム湖に架かる不動大橋は珍しい鋼コンクリート合成桁のエクストロードード橋を採用。平成21年にダム建設が一時中止となった際は橋脚ができたばかり(9)。生活再建として必要であり放置は危険なため、この工事は続行することになった

10 完成したハツ場ダム脇の管理所には、ダム建設の歴史を振り返るコーナーが。連日、多くの人を訪れている



らが提示した金額では安いなと思いました。それで価格を上げ、ようやく折り合いがついたのです」(野田さん)

補償基準調印式はあいにくの雨。調印式は長野原町立若人の館で行われ、約300人が集まった。小寺弘之群馬県知事と田村守長野原町長が立会人となり、関東地方整備局の奥野晴彦局長と、連合補償交渉委員会の萩原昭朗委員長が署名捺印し、ようやくそこから個別の補償交渉が始まることになったのだ。

ただ、このとき隣の吾妻町の補償交渉はまだゼロの状態。吾妻町では平成13年10月に岩島地区に補償交渉委員会ができ、岩下地区・松谷地区・三島西部地区の連合補償委員会が翌14年2月にできた。野田さんは平成16年6月で転勤したが、平成16年11月、後任の安田吾郎所長のときに補償基準の調印がなされることになった。

地元との交渉を重ね、調査の精度も向上したことにより、基本計画を変更

野田さんの在職時には、他にも節目となることがあった。基本計画の変更である。それまでハツ場ダムは事業費2,110億円となっていたのだが、総事業費を倍以上の4,600億円に改定する手続きをすることになったのだ。

「ハツ場ダムは多目的ダムであり、その治水・利水の便益が下流都県にあるため、国土交通省と下流都県との共同事業なのです。費用が倍になる話に各都県はどう対応するのか。国土交通大臣が基本計画の変更を行うときには

都道府県知事の同意を得なければならず、なおかつ都道府県知事は議会の議決を得なければなりません。各都県において議会はどう説明するか、本局には相当に努力してやっていただきました」(野田さん)

高橋さんは関東地方整備局に在職していた平成15年にこの基本計画の変更を担当したそうだ。

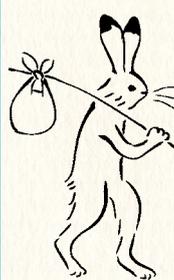
「昭和61年の基本計画策定時には、現地調査が不十分な状況で計画を作って金額を算出したのです。代替地計画も地元の意向をまだ聞いていない段階でした。実際に現地調査をして皆さんのご要望を聞き、計画を見直したときに、全く金額が違ってました。そのための改定でした」(高橋さん)

高橋さんは平成17年に技術の副所長として再びハツ場ダム工事事務所に赴任した。「学校などの主要な施設ができ、付替道路の開通も進み、地元の人々の中で新しい生活の場をつくっていかうという気持ちが少しずつ高まっていたと感じました」と二人は振り返る。

ハツ場ダムでは340世帯、人口にすれば約1,200人に移転してもらわなければならなかった。生活再建を第一に、それでもダム建設は着実に進めなければならない。そのための苦労を重ねた日々の末に、現在のハツ場ダムはある。

令和元(2019)年10月、台風19号(令和元年東日本台風)が伊豆半島に上陸。千曲川決壊をはじめ東日本各地に甚大な被害をもたらした。記録的な大雨により試験湛水開始直後のハツ場ダムは一晩で満水(総貯水量1億750万トン)となり、完成前ながらも首都圏と下流地域を守り抜いたのである。

利根川の治水と新田開発によって栄えた 取手宿

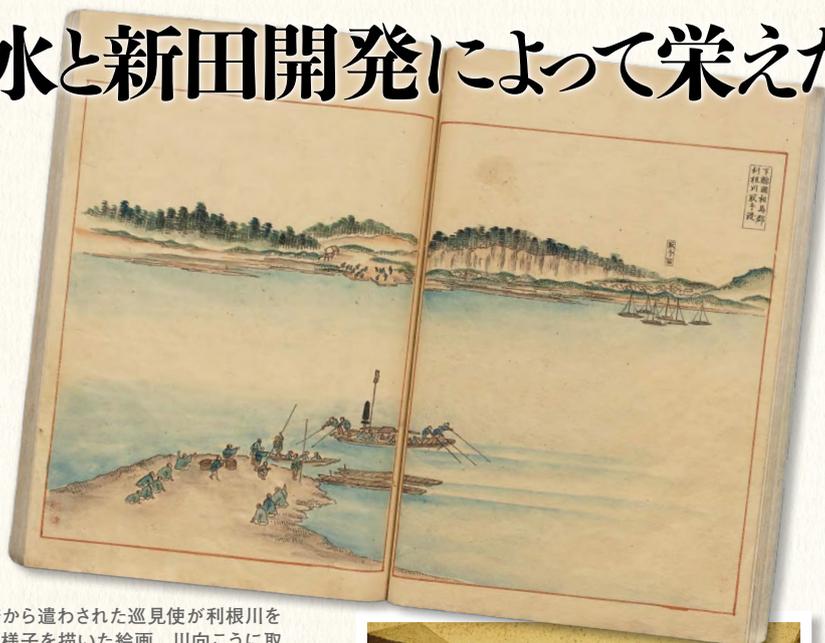


江戸時代、東海道などの
街道に設けられたのが宿場です。

旅人を迎え送り出した宿場の古今の様子を
関東地方の各地に訪ねるシリーズ。
第12回は水戸街道6番目の宿、取手宿です。



今も、利根川には対岸の小堀（おおほり）地区と
取手市内中心部を結ぶ渡し船が運行している



幕府から遣わされた巡見使が利根川を
渡る様子を描いた絵画。川向こうに取
手宿が見える（国立公文書館デジタル
アーカイブ「天保巡見日記」より）



取手の町並みを写した最古の写真（明
治16年）と思われる。明治天皇の行幸
に備え、道普請のために集まった人々
の背後に往時の取手宿の家並みが見え
る（取手市教育委員会所蔵）

大鹿城の「砦」が地名の由来に

「取出」や「鳥手」など、江戸時代の古文書においてはさま
ざまな漢字が当てられていた取手。現在のJR「取手駅」西側
の高台には、戦国武将たちが群雄割拠していた時代、大鹿
城がありました。ここに「砦」が築かれていたことが「取手」の
地名の由来になったと考えられています。一方で、戦乱の世
が終わり水戸街道の宿場町としてにぎわうようになっていっ
たのは「取手駅」の東側。低地にあり、利根川に近いこの一
帯は、江戸時代以前は湿地帯として手付かずのまま荒地と
なっていました。

江戸時代に入ると、幕府は関東各地で河川の改修や堤
防の構築、用排水路の開削など、治水・利水政策を推し進
めます。小貝川と鬼怒川を分離して小貝川の流量を制限
し、それまで湿地帯として放置されていた一帯に用水路や
排水路を整備していくことで、周囲は有望な新田へと生まれ
変わり、新たな農民たちが定住して村落となりました。

時をほぼ同じくして、徳川御三家の一つである水戸藩と
江戸を結ぶ水戸街道の整備が始まります。取手は、水戸街
道の起点である千住から数えて6つ目の宿場町であると同
時に、江戸への物流の大動脈ともいえる利根川に沿って存
在していました。湿地帯が開発されることで豊かな穀倉地帯
となった取手は、水路と陸路が交差し、人や物が行き交う

流通の要として栄えていったのです。

利根川に向かって延びていた佐倉道

「実は、水戸街道が整備される以前から、取手には佐倉
道という街道が通っていました」と話すのは取手市埋蔵文化
財センター職員の飯島章さんです。佐倉道とは佐倉と守谷
を結んで東西に延びる街道でした（取手から西側の守谷方
面は守谷道と呼ばれた）。取手を通過する佐倉道は八坂神
社から利根川の堤防へと向かう小さな道として今も残って
いますが、在りし日の面影はありません。寛文6（1666）年、利
根川大洪水が一带に大きな被害をもたらしたため、利根川
に向かって延びる佐倉道沿いの町並みは川と並行する形に
改められ、ここを水戸街道が通るようになっていったのです。

宿場町として取手宿が栄えるにつれ、かつての大鹿城下
である大鹿村に住んでいた人々も水戸街道沿いに移住。そ
れに伴い、彼らの菩提寺であった長禅寺も現在の場所へと
移りました。

一方、新田開発を機に取手に入植していた人々の菩提寺
は佐倉道の東側に位置する念佛院でした。大鹿村に以前か
ら住んでいた人々と河川流域開発時に移り住んできた人々
は、水戸街道沿いにおいては新旧の立場が入れ替わり、長
禅寺あたりが境になったのだと言えます。

当時のままの姿で保存されている取手宿本陣の主屋。正面の玄関は本陣を利用する大名などの武士が使用し、染野家の人々は建物右側にある大戸から出入りした

本陣の土間には天井が張られていないため、3段に組み上げられた梁丸太を見ることができる



本陣主屋の武家部分と民家部分の境界を分けるどっしりとした板戸。手前が染野家の居住部分で、中央が玄関に面した「なかのま」。その奥に武家用の3つの部屋が庭に面して連なっている



明治初期、本陣の玄関右側に設けられた郵便局の窓口



取手宿ゆかりの大名・徳川斉昭

今も本陣が残る水戸街道の宿場町は、中貫宿、稲吉宿、取手宿の3カ所のみ。中貫と稲吉の本陣には今も子孫が居住しており、建物を自由に見学できる取手宿本陣は当時の雰囲気をも今に伝える極めて貴重な文化財です。主屋の中は、染野家の居住部分と、武士専用の部屋が分厚い板戸で仕切られており、身分の差がはっきりと感じられます。

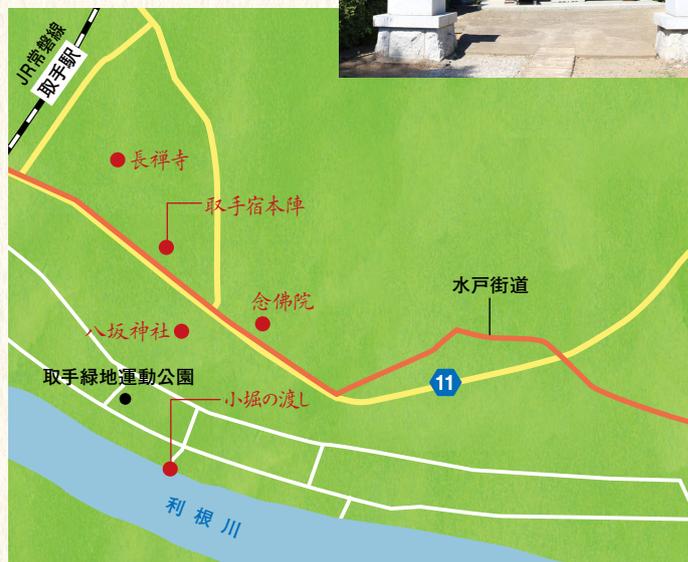
代々取手宿の名主を務めてきた染野家の当主が水戸徳川家から本陣に指定されたのは貞享4(1687)年のこと。取手宿本陣と染野家にとって最もゆかりの深い大名は第9代水戸藩主の徳川斉昭です。天保11(1840)年、水戸へ向かう斉昭は、利根川を渡る船の上で「指で行さほのとりのての渡し舟 おもふかたへは とくつきにけり」の和歌を詠み、天保14年、石に刻んで染野家に寄贈。今もこの歌碑は本陣の裏山、大きなクスノキの向こう側に立っています。

時代は移りゆき、明治初期、染野家当主は五等郵便取扱役に任命され、自宅の一角を郵便局に改造しました。武士や豪商しか利用できない高価な飛脚の時代は終わりを告げ、大衆も利用できる全国一律郵便の時代が幕を開けたのです。玄関の右側に馬蹄型の郵便窓口が並んでいますが、建物の外に面したこのスタイルは全国に5つしか残存しない貴重なもので、郵便創業期の姿を今に伝えています。



旧水戸街道の八坂神社脇に入った小道はかつての佐倉道。利根川に向かってまっすぐに伸びており寛文6(1666)年の利根川洪水で甚大な被害を受けた

旧水戸街道の高台にある念佛院。新田開発後に取手に入植してきた人々の菩提寺である



明治初期の大土木工事だった 堀割川開削

堀割川は横浜市の中心部を流れる中村川から分岐し、根岸湾に注ぐ全長2.7kmの運河です。明治3(1870)年に着工し完成は明治7(1874)年。約4年を費やした、当時としては大規模な土木工事でした。

大岡川と中村川に挟まれた区域は広い入江でしたが、江戸初期に初代吉田勘兵衛がその入江の一部を埋め立て「吉田新田」を開発しました。横浜開港の頃にはかなりの区域が陸地化されましたが、南一つ目沼地と呼ばれる広大な沼が残されていました。一方で、明治に入り発展を続ける横浜は土地不足に悩まされます。目をつけたのが南一つ目沼地でした。その埋め立て用の土砂を用立てるために計画されたのが堀割川の開削だったのです。

堀割川開削の目的は他にもありました。明治に入ると、吉田新田やその周囲には横浜製鉄所などの工場や商社、倉庫が多く進出しましたが、問題となったのはそれらの会社が集まる物資の輸送です。陸路は未整備であり、域内では

大岡川などの河川を利用する舟運が盛んでした。しかし根岸湾に直結する川はありません。そのため中村川から根岸湾に至る運河を建設し、河口には滝頭埠頭を整備して水上輸送の効率を上げることにしたのです。さらに未開発だった沿岸の根岸、滝頭、磯子地区の開発も目指しました。

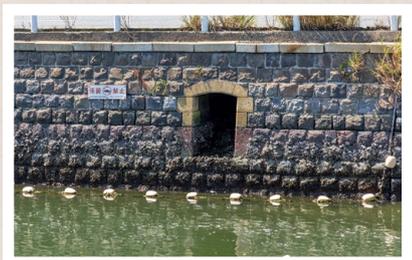
「堀割川の開削と南一つ目沼地を埋め立てた者はその所有を認める」。神奈川県に触れ書きに応え工事を引き受けたのは、初代の末裔である九代目吉田勘兵衛と吉田常次郎でした。彼らは吉田方会所を組織、外国人から借金して工事を開始しますが、工事は困難を極めます。中村にあった高さ36mの弥八ヶ谷戸を崩して幅27mの運河を開削、それらの土砂で23haもある南一つ目沼地を埋め立てたものの、経費はかさむ一方。根岸湾の埠頭建設にも巨額の資金が必要でしたが国や県の補助はありません。ようやく南一つ目沼地の埋め立てと堀割川が完成したとき、吉田家は伝来の資産を使い果たし全てを失ったのでした。

しかし民間企業によって行われた事業の功績は大きなものでした。埋め立てられた南一つ目沼地は横浜関外地区の中心地となり、堀割川は舟運路として重要な役割を果た

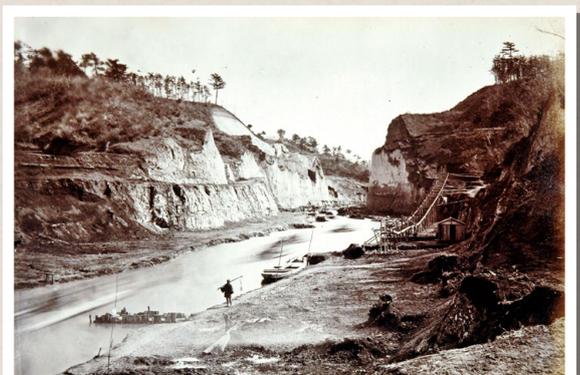
天神橋。
親柱の台座は復興当時のもの



堀割川。
荷揚場や石階段が保存されている



当時の姿を残す割石練積擁壁と下水吐口



開削中の堀割川。
山を切り崩すなど難工事だった
(横浜開港資料館所蔵)



関東の土木遺産 第49回

物資を運ぶ、歴史をつなぐ
明治、大正の面影残す

堀割川

神奈川県

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、「日本の近代土木遺産」として発表しています。

それらの土木遺産の中でも特に価値があるとされる選奨土木遺産。第49回は神奈川県横浜市にある堀割川です。



すようになるのです。

関東大震災で生まれ変わり、 その姿を今にとどめる

完成した堀割川沿いには硝子工場、耐火煉瓦工場、造船所、船宿、食堂などが立ち並び大変なにぎわいでした。

その風景は大正12(1923)年の関東大震災で一変します。横浜は壊滅的な打撃を受けましたが堀割川も例外ではありません。破壊された箇所は6箇所延長約260m。亀裂などは14箇所延長約450mにわたりました。激しく損傷したのはそれまでの堀割川の護岸が石と石を単純に積んでいく空石積だったからです。そこで復旧に際しては石と石をコンクリートで固める割石練積擁壁を採用。なおかつ基礎には多数の松杭を打ち込み強度を高めました。

橋の被害も甚大でした。当時堀割川には八幡橋など5つの橋が架かっていましたが、ほとんどが焼失、落橋。これらの橋も震災復興事業で鉄橋に架け替えられています。そのときに建設された八幡橋、天神橋の親柱は現存しています。物や人のための機能も改善が図られました。

沿岸に荷揚場や昇降場が建設されたのです。その一部は現在でも見ることができます。

堀割川が貴重なのはこうした震災復興事業が基本的に残っていることです。当時の面影を残す唯一の水辺空間として評価が高く、土木遺産に認定された理由でもあります。さらに魅力を高めるために整備されたのが、令和4(2022)年に完成した堀割川いそご棧橋です。河口付近にあり、水や魚などの生き物を間近で親しんでもらおうと、親水施設、浮き棧橋などで構成されています。こうした施設は堀割川だけでなく大岡川にもあります。将来的な構想について神奈川県横浜川崎治水事務所の高木隆一さんは「堀割川いそご棧橋のような親水施設は大岡川にすでに4箇所あり、イベントや憩いの場として親しまれています。中村川などでも整備をさらに進め、将来的には大岡川水系全体で川に親しめるようになればと思っています」と語ります。

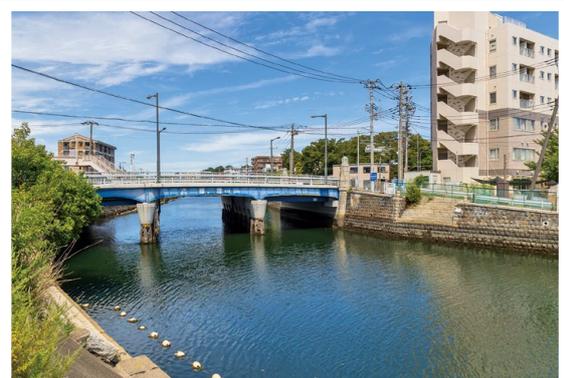
横浜はこれまで海の街として知られてきましたが、これからはさらに川の街としても名を馳せるようになるかもしれません。静かに流れる堀割川はその可能性を感じさせてくれました。



明治の頃の堀割川。対岸にヘルム・ドックの水路がある
(横浜開港資料館所蔵)



ヘルム・ドック(造船所)に通じる水路跡



最下流にある八幡橋。
対岸に昇降場の階段と
両脇に繫船柱が見える

八幡橋の親柱。
復興当時の姿を残している



河口近くにある堀割川いそご棧橋



このページは
会員の皆さまの
投稿によるページです

日本橋をスタート



日本橋での仕事に携わった

今から20年ほど前、平成13年4月から平成16年6月まで東京国道事務所でお世話になったときの思い出です。当時は、日本橋の建設監督官として監督官詰所開設（Kステーション）、日本橋地下歩道拡幅（交通結節点事業）に携わっていました。日本橋地区は古く江戸時代から商業の中心として栄え、現代までその伝統を引き継いだ老舗や歴史ある建物が軒を並べる地域です。

当時は、更新時期を迎えた建物の建て替えとともに新たな街づくりに向け多くの再開発計画が進められようとしていて、日本橋地区の都市再生を支援するため一般国道4号の地下空間を有効活用し、民間の沿道施設と一体となった地下歩道整備により、歩行者空間ネットワークを創出していく「日本橋地区都市再生事業（I期地下通路工事・2箇所208m）」に着手するタイミングでした。地下通路工事は直下の地下鉄銀座線に影響が出ないよう変位計測管理、既設共同溝の

仮移設、狹隘な既設地下通路の拡幅、共同溝の復旧を行う難しい工事でしたが、平成16年には一部区間で歩道のバリアフリー化等供用が開始されました。

江戸の人々にならって 東海道を健康マラソン

平成15年（2003年）は江戸開府・日本橋創架400年ということで、周辺ではパレード・植樹祭などさまざまな記念イベントが開催され、私も幾度か参加しました。

日本橋は五街道の起点となっていて、次第に日本橋に親しみを覚え関心が深まっていた頃、佐藤清氏の『のんびりひたすら江戸五街道』（エスジーエヌ クリエイティブアダック、2002/絶版）を読み、五街道全て完歩されたことを知りました。これをきっかけに、五街道は無理としてもせめて東海道だけでもチャレンジしてみようと、三条大橋を目指し、健康マラソンを行うことを決意しました。

「東海道ウォーキングマップ」を片手に 無事ゴール！

東海道は、日本橋から53の宿場を経て京都三条大橋に至る延長492kmの道程で、江戸時代の人々は1日平均約40kmを歩き、11泊12日で京へ上がったといわれます。これを参考に週末を利用して実行するものとし、江尻（清水）から先は移動時間の効率を考慮して宿泊を伴う12区間を設定しました。

東海道 追体験の思い出

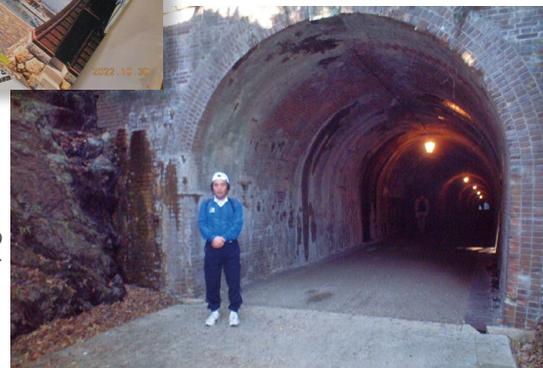


竹渕伸一

元東京国道管理第一課長



『東海道ウォーキングマップ 分冊』



宇津ノ谷峠（静岡県）の
隧道にて

平成15年11月16日、日本橋をスタート。途中排気ガスや足裏のママに苦勞しつつも、平成16年2月8日、ほぼ予定通りに三条大橋にゴールすることができました。

12日間で無事ゴールできたのは、東京国道事務所、横浜国道事務所、静岡国道事務所から頂いた「東海道ウォーキングマップ 分冊」のおかげです。これらが心強い旅の友、道しるべとなったことは間違いありません。

当時を振り返ると、少々我田引水くさいですが、ほぼ昔の旅人と同じ日程（連続ではありませんが）で追体験し、歴史街道を実感することができたと思っています。

今は残る四街道が気になっているところですが、駆け抜ける気力体力はだいぶ衰えていますので、少し楽をして愛車のバイクでのんびり、70歳を迎える前に街道旅を楽しもうとも考えています。



京都三条大橋へ無事ゴール！

会 員 情 報

お悔やみ申し上げます 謹んで哀悼の意を表します

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
竹内 幹夫	令和4年10月	道路部 道路情報管理官
渡辺 楠男	令和5年1月	川崎国道 建設専門官
山本 淳二	令和5年4月	本省 大臣官房付
高須 秋男	令和5年6月	京浜 建設専門官

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
加藤 鉄義	令和5年6月	企画部 技術調整管理官
滝川 光男	令和5年8月	千葉 工事施工管理官
喜多河信介	令和5年8月	本省 大臣官房付
板倉 典雄	令和5年10月	利根川上流 副所長

協会だよりへの投稿のお願い

協会だより編集委員会では、会員の皆さまからの原稿を募集しています。奮ってご投稿ください。

会員のひろば:趣味や特技、現役時代の思い出、紀行文など800～1200字程度で写真数枚を添えてご投稿ください。

会員の近況コーナー:近況報告、エピソード、はまっているもの、お薦めの本の紹介など何でも構いません。思いつくままの短文(1行でも)を書き連ねていただき、お気軽にご投稿ください。

表紙写真:四季を感じられる写真等ご投稿ください。

提出先：協会だより編集委員会

メール、FAX、郵送いずれの方法でも結構です。

● E-mail: kyokai-dayori@kt-chkd.or.jp

● FAX: 048-600-4175

● 郵送先: 〒330-0843

さいたま市大宮区吉敷町4-262-16

マルキュービル9F

(一社) 関東地域づくり協会

協会だより編集委員会宛

編集委員会だより

今年の夏は全国の平均気温が平年より1.76℃も高く、気象庁が統計を取り始めた1898年から125年間で最も暑い夏になったそうです。

このような猛暑の中、今年はずっとスポートでワールドカップが開催され、日本代表は熱い熱い戦いで歴史的な勝利を勝ち取りました。特にバスケットボールは、初めて男子のヘッドコーチに就任したホーバス氏が、①世界でトップクラスの運動量、②国際的に通用するスピード感、③各選手の役割の明確性の3つを目標に掲げて世界に挑んだそうです。戦い方を変えることによつて、見事格上のフィンランドにも勝利をおさめたのです。

この夏、ワールドカップと同じくらいTVニュースで多く取り上げられたのが線状降水帯。以前はあまり聞かない言葉でしたが、ここ数年は毎年のように発生し、台風よりも被害を出すこともあります。組織化した積乱雲群が数時間にわたって同じ場所に停滞し、想定以上の大雨を降らせ、各地で被害が発生しています。被災地では「川が急激に増水し、避難することもできなかつた」との報道もありました。災害の形が変わっていく昨今、「自らの命を守るため」意識や行動を変えていく必要があるのだと思わされます。(編集委員 K・O)

編集委員

● [関東地域づくり協会]

有馬正吾
大柴公彦
辰野剛志
前田隆徳
丸山貴志
山下真治

[会員]

浅古勝久((株)熊谷組)
望月美知秋((株)日水コン)

ピックアップ

第26回

関東の道の駅 地元産の野菜や果物が豊富にそろおう！ 都内唯一の道の駅



道の駅「八王子滝山」

道の駅「八王子滝山」へはJR八王子駅からバスで約15分



JR八王子駅前から延びるひよどり山トンネルを抜けた先に位置する道の駅「八王子滝山」。地域の農産物、畜産物、加工食品などを豊富にとりそろえ、平日には地域の人々、週末には観光客と、日々、多くの人々が訪れています。

八王子産の野菜や卵を身近に！

道の駅「八王子滝山」は東京都内唯一の道の駅。平成19(2007)年4月1日に、八王子市街地から少し離れた都道169号(新滝山街道)沿いに開業しました。

施設の中心はなんといっても直売所。八王子市は田畑も多く、冬は白菜、夏はナスにキュウリにトマト、スイカやメロン、ブルーベリーと、季節ごとに採れる農産物は驚くほど豊富です。地域では養鶏も盛んで、おいしい卵も並びます。八王子の農家の女性たちが運営する惣菜店もテナントに入っており、からみ餅やコロケ、東京を代表するブランド豚「東京X」を使ったもつ煮などが飛ぶように売れていきます。付近にはスーパーマーケットがないため、地域の人には必要なものがそろそろ身近な店舗として利用されており、平日の利用者は地域の住民や近隣から来るリピート客がほとんどです。

「生産者の皆さんが、JAなどには出荷できない規格外の野菜や果物を詰め合わせて並べてくれています。味は変わらないのにたくさん入っていてお得感がある。他ではあまり買えないため、ここでは逆にそういったものが人気です」と話すのは副駅長の須田巧さん。

よくお客さんに「どれがおいしいの?」と聞かれるそうです

が、同じ野菜でも味や大きさはさまざま。「いろいろ食べ比べて、好みのものを選んでいただきたいです」(須田副駅長)

地元こだわりの観光客にも魅力を伝えたい

2年前に指定管理者が代わったのをきっかけに、直売所をリニューアル。「以前は生産者の皆さんがそれぞれに自由に商品を置かれていたのですが、お客さまが商品を選びやすいよう、同じ野菜を集めた配置に。鮮度や品質も、スタッフが一つずつ管理しています」と須田副駅長。納品時間は6時45分からオープンの8時までが基本ですが、兼業農家も多く、時間をずらし午後に持って来る生産者も。次々と納品されるため、早朝でなくとも商品がある状態が保たれています。

週末は打って変わって、山梨県や神奈川県と都心とを行き来したり周辺の大規模レジャー施設を訪れたりする観光客でいっぱい。地元産の生乳を使ったジェラートショップや地元製麺所の麺を使用したラーメンも大人気!

「なるべく公共交通機関も利用していただければ。規模は小さいですが、ここにしかないものもたくさん。ぜひ多くの方に越えたいです」(須田副駅長)

地域に貢献するために、充実の品ぞろえでお客さまを迎えています。



「都内唯一の道の駅とあって取材も多いです」と話す副駅長の須田巧さん

直売所には季節ごとに地元で採れる野菜が山積み!



惣菜店には地元の女性たちが作る惣菜が次々と並び



八王子産のイチゴをたっぷり使った「いちごみるくの素」



週末にやってくる観光客にはジェラートが人気。開放的なテラス席でひとやすみ

